

# 知を深めて、新しい価値を生み出す 学びの街

## Background

富山駅周辺エリアと総曲輪エリアは商業施設が立ち並び繁華街となっているが、これらの中に位置する県庁周辺エリアは県庁や市役所をはじめとした官公庁、新聞社や放送局、その他企業のオフィスが立ち並び、オフィスワーカーが多く集うビジネス街となっている。また、近くに富山中部高等学校や学習塾・予備校も立地しているため、中高生がよく行き来する場所でもある。県庁周辺エリアは「産・学・官」の3つのポテンシャルを有していることが大きな特徴であり、このエリアの価値や魅力を高めるためには、これらのプレイヤーに必要とされる機能を導き出すことが必要である。



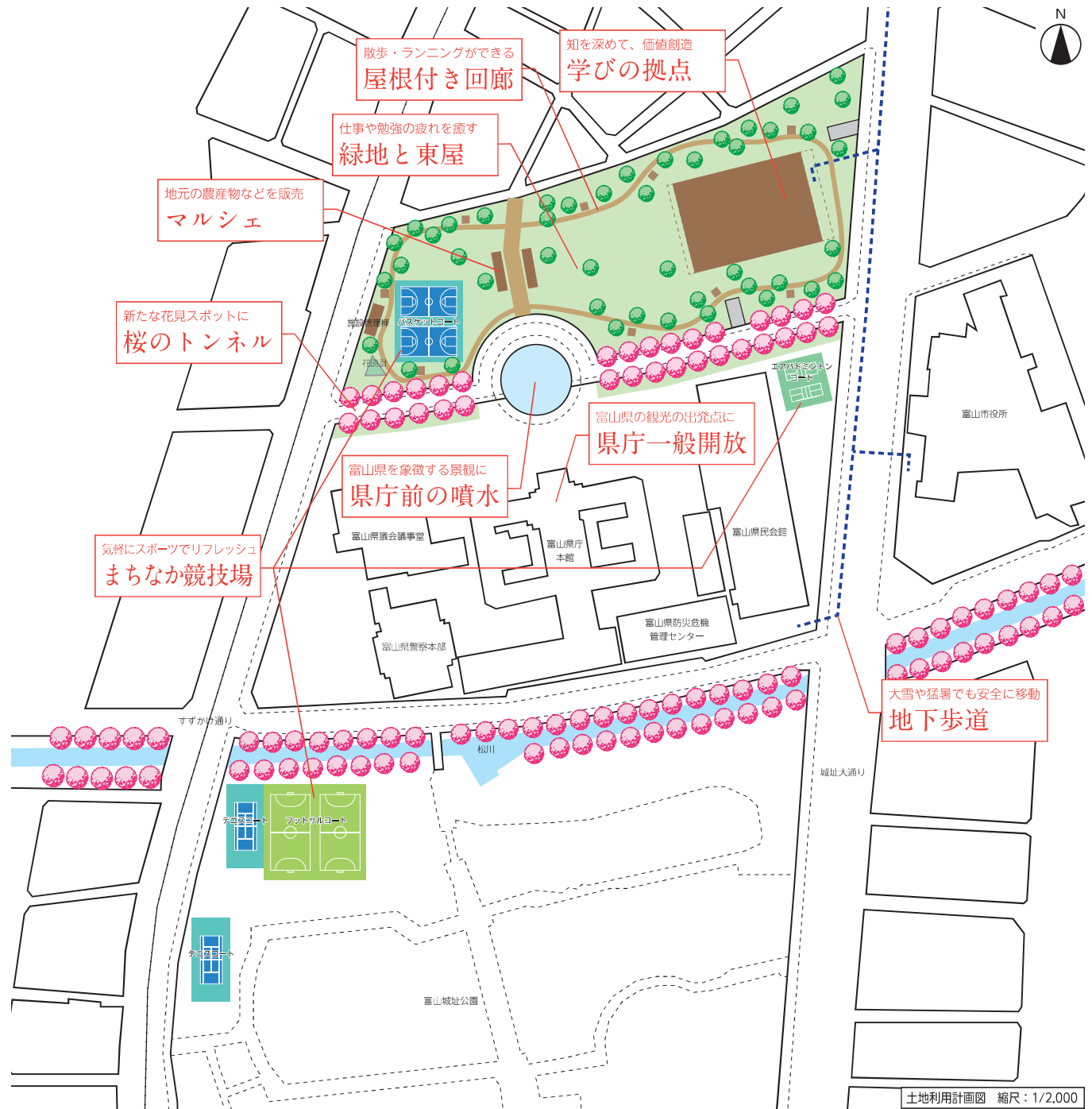
## Concept

県庁周辺エリアのプレイヤーに求められるものは「学び」ではないかと考えた。

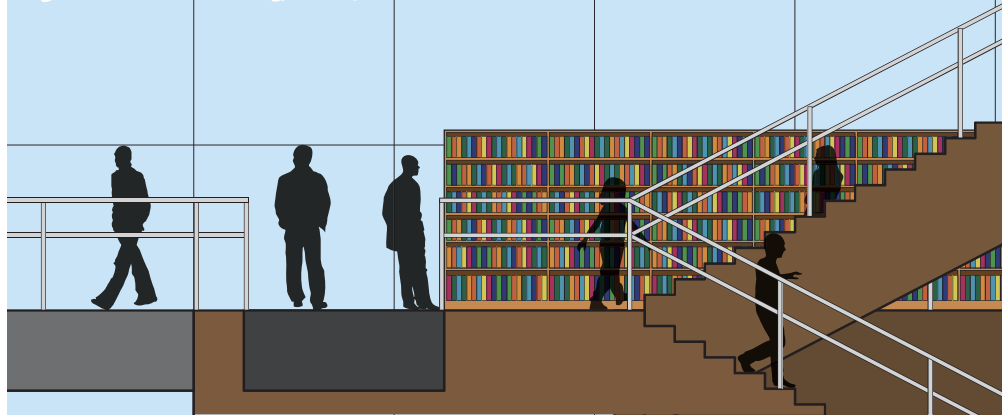
学生はもちろん、社会人にとっても学びは重要である。DXやAI技術の進化などにより社会が目まぐるしく変化中、リスクリングに関心が集まっているように、近年特に学びの重要性は高まっている。このような社会で求められるのは「新しい価値を生み出す力」だ。新しい価値を生み出すには、広範な知識・知見が必要である。富山県は教育に力を入れている県としても知られている。県庁周辺エリアに学びの拠点を設けることで、富山県の強みである教育を一段と強化し、社会を切り開いていく人物を輩出していく。

仕事や勉強で疲れたときには「リフレッシュ」が必要である。リフレッシュできる公園を設け、引き続き職場や学校で活躍できるよう心身ともに元気を取り戻せる街にする。

「学び」 × 「リフレッシュ」



# 学びの拠点



## 県立図書館のまちなかへの移設

富山県立図書館は約 100 万冊の蔵書を抱え、富山県内の公立図書館の中では最大の図書館であるが、交通アクセスが悪いことが欠点となっている。令和 5 年度の利用者アンケートでは利用者の年齢層に偏りがみられ、若者の利用促進が課題となっている。昭和 44 年に竣工した現在の館舎は築 55 年を迎えており、施設の刷新を考えるべき時期であると考えられる。富山市茶屋町に移転する前は現在の県庁前にあったという経緯もあり、再び県庁前に場所を戻し、幅広い人たちに活用しやすい施設として生まれ変わらせる。

## 体験型学習展示スペース

本を読むだけでは深く理解できないことも多い。また、本を読むのが得意でない人も少なくないので、図書館で本を提供するだけでなく、実際の物を見たり触れたりして知見を深められる展示施設を設ける。

たとえば、物理の問題を再現できる装置を用意して、実際に答えのとおり挙動を示すのかどうかを確認したり、歴史の一場面を VR や舞台セットなどで体験したりできるような展示が考えられる。各学校から校外学習としてこの施設を訪れ、座学で学んだことの理解を深めるといった使い方も想定される。

児童や生徒向けの内容だけでなく、大人も学べるようなテーマの展示も行う。たとえば、防災に関する展示や気候変動に関する展示などが考えられる。

## 大講義室

150 人程度を収容する講義室を設け、県内外から講師を招いて講義形式で学べる機会を提供する。たとえば、地震を専門とする大学教授を招いて地震のメカニズムについて説明してもらったり、大手予備校の名物講師を招いて受験勉強の心得を説いてもらったりといった内容が考えられる。

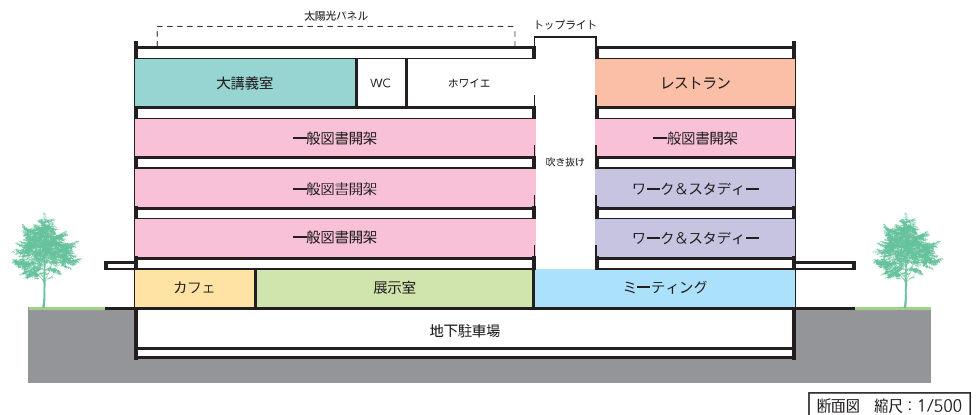
## ワーク&スタディスペース

「本を借りるため」ではなく「勉強するため」に図書館を訪れる人は多い。家では集中できないので勉強したいという需要は高く、TOYAMA キラリの学習スペースは休日には満席になる。富山市中心部で無料で勉強できるスペースは限られており、まちなかの勉強スペースのさらなる充実を図る。

また、近年では働き方改革の一環でテレワークが浸透しているが、テレワークの需要にも対応できるよう、個室や個別ブースも設ける。

## ミーティングスペース

一人で勉強するより複数人が集まって教え合うほうが効率的な場合がある。2～6 人程度で「勉強会」を開催できるスペースを設ける。児童や生徒が集団で訪れて行う勉強会のほか、社会人が仕事帰りに同僚らと訪れて資格取得や職業能力向上のために行う勉強会などでも活用してもらいたい。



# リフレッシュのための公園

## 緑地と東屋

学びの拠点の周囲には人々の疲れを癒やし、リフレッシュできる公園を設ける。緑は疲れた心を癒す効果があるので、大部分を緑地とし、地面には芝生を植え、適度に樹木も植えて木陰を作る。現在の県庁前公園には公園を囲むように高木が立っており、人を寄せ付けぬ印象を与えているが、そこまで背の高くない木を隙間を空けて植えることで、人が入り込みやすい公園に改善する。公園内には東屋を建てて、休憩したりお弁当を食べたりできるようにする。

## 屋根付き回廊

富山市では平成 30 年度に「歩くライフスタイル戦略」を策定し、「とほ活」というキャッチコピーで歩く生活を推奨している。公園内には 1 周 600m 程度の回廊を設け、散歩やランニングができるようにする。真夏や大雪の際にも利用できるよう、回廊には屋根を設ける。

## 県庁前の噴水

昭和 33 年に建てられた県庁舎本館は、竣工当時の姿を今に残しており、国の登録有形文化財になっている。ファサードからも歴史的な建築物であることが窺えるが、あまり注目されていないと感じる。この歴史的建築物に人々の注目を集めつつ、県の中心としての存在感を示すため、県庁前公園の噴水を県庁舎本館の正面に移設する。これにより、噴水と県庁舎が重なる優れた景観となり、県庁舎に注目を集めるとともに、富山県を代表する景観とする。夜には、県庁舎と噴水をライトアップし、昼間とは違った景観を見せる。

## 県庁舎の一般開放

県庁舎本館には執務室が入っており、一般の人が見学するための仕組みは整っていない。そこで、3 階の特別室をはじめとした一部の部屋を一般の人が自由に見学できるように開放する。富山県の概要、見どころ、歴史などが学べる展示を設け、富山県に観光を訪れる人がまず訪れて富山県について知ってもらえる、いわば観光の出発点となる施設とする。

## 桜のトンネル

県庁前通りには、両側に桜の木を植え、桜のトンネルを作る。県庁裏の松川べりは桜の名所として知られているが、併せて花見ができる新たな桜の名所とする。桜並木によって人々を県庁前公園や噴水に誘い、集いと憩いの場所とする。

## まちなか競技場

広い芝生の広場を有する城址公園に対し、県庁前公園には緑地を作るだけでなく、アクティビティができる空間を設ける。スポーツはリフレッシュに最適であり、健康維持にも有効だが、富山市中心部には思いのほか気軽にスポーツができる場所が少ない。そこで、県庁周辺エリアに様々なスポーツの競技場を設けて気軽にスポーツができるようにする。

県庁前公園にバスケットコート、未利用となっている富山市立図書館の跡地にフットサルコートとテニスコート、県民会館前にエアバドミントンコートそれぞれ 2 面ずつ設ける。まちなかに競技場を作ることで、ビジネス街の様相を呈するこのエリアに活気をもたらしてくれるだろう。



## マルシェ

公園内にマルシェを設け、地元の農産物などを販売する。仕事帰りに寄りやすい立地であり、にぎわいを創出するとともに地産地消に貢献する。

## 地下歩道

富山県は冬に雪が降り、大雪になることもある。また、夏には猛暑に見舞われることも多い。大雪や猛暑の際にも安全に移動できるよう、富山駅から松川の近くまで地下歩道を整備する。地下歩道は、暗く陰気な雰囲気にならないよう、トップライトを設けて明るい雰囲気になるように配慮する。富山駅周辺エリアから総曲輪エリアにかけて人の往来が増えることが期待され、街の連続性・回遊性の向上にも寄与する。

## まとめ

県庁周辺エリアに「学び」と「リフレッシュ」の空間を設けることで、この場所を訪れる人々の日常を充実させるとともに、学びの促進により社会を切り開く人々を育てることができる。すなわち、個人と社会の双方にとってウェルビーイングの向上につながる。

また、富山駅周辺エリアと総曲輪エリアの間に人々が集うエリアを新たに設けることで、連続性や回遊性に優れた街となる。

以上の計画により、県庁周辺エリアを「富山を代表する土地」にしたい。

「学び」×「リフレッシュ」＝

ウェルビーイング向上

